

## 宮本茶園 宮本透

梅雨明け直後で真夏の日差しが照り付ける猛暑の日でした。県農業技術センターの研修会で朝から更新剪枝の技術指導を受けていたのですが、午後の作業が始まり1時間程たつと剪枝機を持つ手が痙攣して足がふらつきだしました。意識がもうろうとして焦点が定まらず、例えるなら酒を飲み過ぎて酩酊状態になった時のようでした。私の異変に気付いた先生たちから「宮本さんやばい、熱中症ですよ！機械操作は危険なので今日はもう作業を止めましょう」と声を掛けられ、木陰に連れていってもらいました。10分程横になっていると意識が戻って会話ができるようになりましたが、熱中症になったのはショックでした。

この季節には田畑で野良仕事していた老人が夕方になっても帰宅せず、家族が捜すと倒れて亡くなっていたというニュースを耳にします。私は毎日足柄茶リシール缶をガブ飲みしていますが水分補給だけでは防げない熱中症の恐ろしさ、身をもって体験しました。今は昼食後日差しが傾くまで昼寝し、健康管理に心がけています。

### ・藤野茶業部佐野川茶の神奈川県茶品評会入賞

藤野茶業部今年度の茶葉摘採はJA神奈川つくい藤野支店職員の尽力があり、収穫した生葉は刈り始めから3時間以内に全てチャピュア清川茶工場へ搬送する事ができました。佐野川茶用荒茶を品評会出品茶にしましたが、工場長から「とても良い荒茶だから、品評会出品まできちんと管理すれば入賞するだろう」と誉めていただきました。品評会上位入賞者は温度・湿度・臭気・光が悪影響を与えないよう、保管に細心の注意を払って荒茶を出品しています。藤野茶業部出品茶は2022年に愛川工場出品の心構えを研修するまで下位十傑が指定席、宮本茶園は2018年初出品茶が120点中120位でした。愛川工場で学んだ品評会出品茶準備技術が功を奏して順位が上がり、今年はチャピュア清川工場長の言葉を励みに出品茶準備に取り組みました。

7月7日相模大野駅ビルにあるさがみはらアンテナショップ・サガミックスで佐野川茶の新茶試飲会を企画していただきました。軍刀利神社で汲んだ名水を沸かし、急須で淹れた新茶を紙コップに分けて買物客に試飲していただきました。店頭では上級煎茶と特上煎茶を販売、試飲には特上煎茶を使っている事を説明すると多くのお客様が「こちらをいただくわ」と高価格の特上煎茶を選んでくださり、入賞の手ごたえを感じました(写真①)。

7月18日神奈川県茶品評会審査が行われました。藤野茶業部は茶草場農法で栽培している茶園の荒茶を4点出品しましたが、全て入賞する事ができました。2018年佐野川茶誕生から始まった藤野茶業部佐野川茶相模原ブランド構築の取り組み、ようやく結果を出す事ができ感無量です。先生からは「無農薬での入賞は誇ってよい、快挙ですよ！」とお祝いの言葉をいただきました。20日開催されためぐりんず感謝祭では早速入賞報告ポップが売場に掲示され、出荷者組合ブースで水出し冷茶を来店のお客様に試飲していただきました(写真②③)。



①



②



③

### ・夏の茶仕事

摘採作業が終わると茶農家は梅雨入り前に中切り更新剪枝、梅雨期間の6月下旬～7月中旬に夏整枝作業を行います。作業によって剪枝機・浅番刈機・刈ならし機と機械を使い分けますが、どれも2人で操作する機械で取り扱いは危険が伴います。佐野川でこれらの機械を扱える人は多くないので整枝作業の人員確保にはいつも悩まされます。茶栽培に取り組んでいる市民グループも同様の問題を抱え、和田地区の夏整枝はみちくさの会と協同で取り組む事になりました。2日がかりの作業になりましたが、今後も継続したい事業です(写真④)。

夏整枝作業に引き続いて、夏肥を施します。和田茶園の急斜面で20kgの肥料が入った撒布器を背負っての施肥作業をしていた時の出来事です。猪の掘った穴に足をとられ転び、ひっくり返った亀のようにもがいたのですが起

き上がりませんでした。撒布器を降ろして立ち上がりましたが、肥料は半分以上こぼれ落ち悲惨な状況です。昨年副部長が「20kg を背負える宮本さんは若いな。俺は肥料袋半分しか背負えないよ」と呟いた言葉を思い出し、急斜面での転倒は大怪我につながると反省しています。夏肥作業後は茶園の草刈りとつる草取りです。7 反の除草作業は無限ループで終わりが見えませんが、来年の品評会入賞を目標に精進続けています(写真⑤⑥)。



④



⑤



⑥

## ・第 46 回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会

相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会の花卉栽培は 5 回目となり、今年はヒマワリ 1500 本・ベニバナ 100 本・ヒャクニチソウ 100 本を植え付けました。播種時期と茶葉摘採作業が重なり時間をやりくりして準備していますが、加齢に伴い年毎に仕事にかかる時間が長くなりこなす量が少なくなっている事を感じています。橋本さんや高村さんからは「無理をしないように、負担なら止める事も考えなさい」と諭されています。

追悼会に先立つ今年の神奈川朝鮮中高級学校フィールドワークは藤野茶業部活動と重なり、献花用生花は前日に用意しました。夕方まで茶園の草刈りに追われ、花卉畑で生花を収穫し花束が作り終えると辺りは真っ暗でした(写真⑦)。7 月 27 日は早朝より相模原市教祖の先生たちとヒマワリ・ヒャクニチソウを収穫、会場準備に取り組みました。28 日追悼会当日はたくさんの参加者が侵略戦争犠牲者に献花してくださいました。橋本さんたちの助言はありますが、体が動く限り花卉栽培に取り組みたいという気持ちが強くなりました(写真⑧⑨)。



⑦



⑧



⑨

## ・夏の雑穀畑

昨年秋に栽培講習会が終了して訪ねる人がめっきり少なくなった雑穀畑ですが、ちーむゴエモン活動の小麦・大豆栽培と INCH 活動の雑穀栽培は継続しています。小麦は 6 月下旬に 3 日かけて刈り取り、ヤギ苑で脱穀していただきました。昨年は植え付けに失敗して収穫できなかった大豆は、7 月になってしまいましたが津久井在来大豆と借金なし大豆を播種しました。鳥害対策に不織布を掛けたので、発芽が遅れ鳩に食べられた箇所以外は順調に生育しています。小麦の天日干しが終わり、大豆収穫で来年の醤油原料は確保できそうです(写真⑩⑪)。

8 月 4 日植物と人々の博物館メルマガを読んだ栽培講習会参加者が雑穀見本園の防雀ネット張りを手伝ってくださいました。キビは 7 月下旬出穂、収穫まできちんと管理して今年もしっかり種継します(写真⑫)。



⑩



⑪



⑫

※佐野川での雑穀栽培に興味のある方は宮本（携帯：090-2205-8476  
e-mail：kwangjuu1980@yahoo.co.jp）へご連絡ください。